

### (3) マカオ視察を終えて

マカオ視察を踏まえ、今回の調査における大テーマである諸懸念への対応などについて、所感として整理する。

#### 1) 各懸念事項に対する対応について

---

- ① ギャンブル依存症については、マカオ市民は 1.78%と国際的な水準からすれば深刻な問題とはなっていないが、大挙して訪れる中国人民の中には経済的な破綻を来している方も少なからず存在しているようであった。娯楽が少ないと言われる沖縄県に導入するに当たっては、県民利用については慎重に議論する必要があると感じた。
- ② 青少年への悪影響については、各カジノとも入口でチェックすることにより入場を規制しているが、身分証の提示まで求めている所は少なかった。施設によってはカードを作成するなどの対応策を講じており、沖縄に導入する上では参考となる事例であった。
- ③ マカオ市内のカジノは市街地に立地し、市民生活の場に近接しており、市民及び青少年に対しても少なからず何らかの影響があると見受けられる。新たに整備が進められているコタイ地区は、市街地と一定の距離が確保されていた。
- ④ マカオの旅行パンフレット等では、性風俗産業も大きく取り上げられているが、街中においてはチラシを配る人や関連情報誌を販売する場所も存在するが、客引き行為も少なく、警察も巡回しているなど、危険な街であるという感じはしなかった。却って、以前の松山の方が酷い状況にあったのではないかと感じた。
- ⑤ マカオは観光資源として活用できる自然資源が乏しく、人工的な造形により華やかさを演出している面があり、水・電力・食料品などの供給方法において近隣地域との関係が悪化しているとのことであった。
- ⑥ 歴史的にマカオのカジノは、組織悪との関わりがあり様々なトラブルが過去にはあったが、市場開放によりその問題を沈静化している状況にある。また、今後に向けても対策を講じつつある。

## 2) 沖縄に導入する上での考え方について

---

- ① マカオは想像していた以上に世界市場が集積していた。旧ポルトガル領ということもあり、中国というよりヨーロッパにきたという印象で、カジノ施設やホテルを実際に目にとると想像以上に規模が大きかった。
- ② 視察により、カジノのイメージが変わった。カジノは一定地域に限られてあると思っていたが、実際には街の中にホテルと併設し、施設を中心に街ができていた。カジノによる経済効果も大きく、その繁栄ぶりには驚嘆した。ポルトガル領時代の歴史性のあるマカオのイメージとはかなり異なり、社会環境や歴史などの諸々が大きく変わりつつあるように思えた。
- ③ マカオのカジノは経済的影響も大きい、立ち入りの制限や指導体制がしっかりしているように感じた。街の中で子供の姿は殆ど見かけなかった。青少年の立入などについては、罰則を厳しくしているとのことである。しかし、実際には青少年の問題は発生し、少年や大人の自殺もあるとのこと。また、ギャンブル依存症については、その発生率は世界と比べれば、低いとのことであるが、これらの諸問題については、ポリシーをしっかり持って、沖縄ならではの対応を図ることが重要であると言える。いずれにしろ、青少年問題や教育環境等の課題が発生することは避けられないことである。
- ④ 沖縄はマカオに比して、自然や人的交流などの魅力があり、外国人を含め観光地としての誘客の素地も十分ある。他方、エンターテインメントビジネスという視点からは、沖縄観光がステップアップするための施設の充実が必要となる。その一つであるカジノ導入に際しては、管理体制について十分に議論し、管理責任が持てるように努め、将来の展望が描けるように留意する必要がある。
- ⑤ カジノ導入による沖縄の変化については、従来の沖縄の良さや魅力を保つことを十分に考える必要がある。マカオの関係者からは、「沖縄には海があるが、マカオは人工的である。沖縄は自然が美しく素晴らしいので、それにプラス $\alpha$ としてカジノを考えてはどうか」という意見があった。マカオは人工的、沖縄は自然的というように、マカオと沖縄ではキーワードやコンセプトが違ってくる。カジノ導入は、沖縄の青い海と青い空、美ら島うちなー、観光リゾート、沖縄文化というものに、プラス $\alpha$ としてのカジノ施設を導入することになるのかとイメージした半面、単純に「カジノの島沖縄」にはなって欲しくないという思いがした。